

【暗唱聖句】申命記 7:7「主が心引かれてあなたたちを選ばれたのは、あなたたちが他のどの民よりも数が多かったからではない。あなたたちは他のどの民よりも貧弱であった」

【日曜日・イスラエルの選び】

神様はイスラエルの民を特別に選ばれましたは、それは彼らが特別に優れていたからではありません。では、イスラエルの民はどのような理由で選ばれたのでしょうか。それはアブラハムの子孫であるがゆえに選ばれたのであり、アブラハムに与えられた祝福の基となる使命を受けつぐために選ばれたのです。祝福の基となるとは、一言でいえば、福音を述べ伝えることです。

出エジプト 19:6「あなたたちは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。これが、イスラエルの人々に語るべき言葉である。」

イザヤ 56:7「わたしは彼らを聖なるわたしの山に導き、わたしの祈りの家の喜びの祝いに連なることを許す。彼らが焼き尽くす献げ物といけにえをささげるなら、わたしの祭壇で、わたしはそれを受け入れる。わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる。」

イエスラエルは祭司の王国となると書かれてあります。祭司には、犠牲の動物を捧げることを通して、神様から赦しを受けるための橋渡しをする働きがあります。それは神様への祈りでもあります。神様はイスラエルの民に対して、「聖なるわたしの山に導き、わたしの祈りの家の喜びの祝いに連なることを許す」と言われています。彼らは、聖なる主の御前に導かれ、喜びに満ちた祈りの家に連なる経験をする特権が与えられました。そして、経験したその溢れる喜びを、他の民族に伝えていくのです。これはいま教会に与えられている使命でもあります。

ヘブライ 2:9「ただ、「天使たちよりも、わずかの間、低い者とされた」イエスが、死の苦しみのゆえに、「栄光と栄誉の冠を授けられた」のを見ています。神の恵みによって、すべての人のために死んでくださったのです。」

ヘブライ 2:9には、「イエス様はすべての人のために死んでくださった」とあるように、イスラエルのためにのみ死なれたわけではないのは明らかです。イスラエルはこの贖いが世に知られるための器になるように召されたのです。

【月曜日・結び合わせるもの】

申命記 4:13「主は契約を告げ示し、あなたたちが行うべきことを命じられた。それが十戒である。主はそれを二枚の石の板に書き記された」

神様は契約を結ぶ際に、イスラエルが守るべき 10 の戒めを 2 枚の板に自らの手で書き記しました。救いはキリストの贖いの業により、無償で与えられる恵みですが、不服従でも良いということではないことがわかります。契約（恵み）と律法は一つなのです。契約は他者との関係であることを考えれば、2 者の間には規約や限界を示す一線が必要となります。神様との関係が結婚の関係にしばしば例えられますが、もし相手が浮気していたとしたらどう思うでしょうか。その関係はどれくらい続くでしょうか。そう考えると、契約と律法との関係が分かりやすいかもしれません。しかしながら、どれほど相手愛していたとしても、皆が完全な愛を貫けるわけではありません。しかし、お互いに誠実に関係を続けて行くならば、長い年月をかけながらも、その愛は深まり成熟していきます。神様との関係もこれと似ているかもしれません。律法を守りたくても守れない自分を知っています。そのことを悲しんでいることをイエス様はご存じです。それをひっくるめて私たちが愛して下さいます。

【火曜日・契約の中の律法】

ヘブライ語で「トーラー」を律法と訳していますが、この言葉には「教え」「教訓」などの意味があります。トーラーには、神様がその民にお与えになるすべての賢明な勧告を含み、それによって民たちは身体的、靈的に豊かな命を経験することができます。詩篇記者はそのような経験に与っている人のことを、「主の教えを愛し、その教えを昼も夜も口ずさむ人」と呼んでいます。ところで、このトーラーは神様を礼拝することだけでなく、社会生活や農耕、民事に至るまで、イスラエルの生活のすべてに触れられています。なぜ、トーラーの内容はこれほど広範囲に及んでいるのはなぜでしょうか。それはトーラーすなわち律法は、新しい生き方全般にわたるガイドラインとして書かれたからです。これにより彼らは、他の諸民族の生き方に従うことはできないことを示すのでした。また同時に、律法には神様の御心が記されています。つまり、律法を通して神様の御心を知ることができるのです。多くの人が自分の必要や欲望に従って生きる中で、イスラエルは神様の御心を基準に生きるように導かれたのです。これにより彼らは真に神の聖なる国民、祭司の王国、神様にとって特別な宝であり続けることができ、同時に神様の御心を彼らの生活を通して世に証するのでした。

【水曜日・神の律法の不変性】

マラキ 3:6 に「まことに、主であるわたしは変わることがない」と、神様は不変の方であることが示されています。ということは、律法の中に示された神様の御心も変わることがありません。また律法は神様のご品性の写しであり、それを一言でいうならば、愛です。つまり神様は永遠に愛の方であるということが律法の中に示されているのだとも言えます。律法の役割の一つに、私たちが神様と調和させることがあります。神様との契約関係の素晴らしさは、神様と調和して生きることができることであり、神様と調和するときに訪れる平安と喜びは、この世にはないものです。律法を守らなければならないと言うと、少し苦しく感じる人でも、神様と調和して生きるのだと言われれば、印象は随分と違って来るかもしれません。神様と調和して生きるとは、神様の心を私の心として生きることです。

【木曜日・もし…】

創世記 18:19 に、神様はなぜアブラハムを選ばれたのかについて、次のように記されています。

「わたしがアブラハムを選んだのは、彼が息子たちとその子孫に、主の道を守り、主に従って正義を行うよう命じて、主がアブラハムに約束したことを成就するためである。」

アブラハムが期待されたのは、「息子たちとその子孫に、主の道を守り、主に従って正義を行うよう導くことでした。それにより、主はアブラハムに約束されたことを成就されるのでした。では、アブラハムを息子イサクに対してこれを実行したのでしょうか。創世記 26:4、5 を見ると、主がイサクに次のように語っています。

「わたしはあなたの子孫を天の星のように増やし、これらの土地をすべてあなたの子孫に与える。地上の諸国民はすべて、あなたの子孫によって祝福を得る。アブラハムがわたしの声に聞き従い、わたしの戒めや命令、掟や教えを守ったからである。」

アブラハムは神様から言われたとおりのことを忠実に果たしたと神様はお認めになったとはっきり書かれてあります。その結果、アブラハムとの約束である子孫を天の星のように増やすこと、すべて子孫に土地を与えること、さらに地上の諸国民はすべて子孫によって祝福を得ることを、もう一度繰り返し約束して下さいました。モーセに対しても同様に、「今、もしわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、あなたたちはすべての民の間にあってわたしの宝となる。世界はすべてわたしのものである」(出エジプト 19:5)、あるいは「あなたたちがわたしの掟に従って歩み、わたしの戒めを忠実に守るならば、わたしは時季に応じて雨を与える。それによって大地は作物をみのらせ、野の木は実をみのらせる。」(レビ記 26:3) と、主の声に聞き従うことがいかに祝福を受けるために重要な要素であるかが書かれてあります。選ばれた民だからといって無条件で祝福を受けるわけではないのです。ただ、神様から恵みを受けるもとなつたとしても、それが彼らがそれに価する者となつたということを必ずしも意味しているわけでもありません。求められているものに対して、与えられる祝福はあまりにも大きいからです。しかし、そのような約束を神様は民と結ばれたのです。